

社会科(地理的分野)学習指導案

日 時 平成 23 年 11 月 22 日

場 所 2 年 4 組教室

授業者 隅 田 和 幸

- 1 単元名 さまざまな面からとらえた日本 「人口の特色をとらえよう」
(帝国書院 P 1 5 0 ~ 1 6 3)

2 単元の目標

- 世界的視野からみた日本の地域的特色を人口の観点からとらえるために、世界や日本の人口にかかる諸課題を意欲的に追求しようとしている。(関心・意欲・態度)
- 世界的視野からみた日本の地域的特色を人口の観点からとらえるために世界や日本の人口にかかる諸課題を多面的・多角的に考察し、自分の考えとして説明することができる。
(思考・判断・表現)
- 世界的視野からみた日本の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、有用な情報を的確に選択し、活用できる。(技能)
- 世界的視野からみた日本の人口の特色や日本国内の人口分布の特色を明らかにする視点や方法を理解し、人口の地域的特色に関する知識を身につけている。(知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領に示された(3)「世界と比べてみた日本」の「ア様々な面からとらえた日本」の内容のうち、(イ)「人口からみた日本の地域的特色」を受けて設定している。

世界の人口は、アジア・アフリカなどの発展途上国を中心として増加の一途をたどり、ついに70億人を超え、なお増加し続けている。そのため、人類は人口増加にともなう様々な課題に直面し、その対応にせまられている。一方、日本は人口が1億人を超える数少ない国の一つであるが、その人口は1億2,700万人程度で横ばい状態にある。また、女性が一生に産む子どもの数を表す特殊出生率は低い状態が続いていることとあわせ、急速な高齢化もみられ、他の先進国と同様に少子高齢社会をむかえている。

こうした現状の中で、本単元は『人口』という大きな観点から、次の2つのこと主なねらいとしている。一つは、世界的視野から日本を一つの地域として追求することにより、日本が持つ特色と課題にせまることである。もう一つは、日本全体の視野から国内の地域差を追求することによって、我が国の国土の特色をとらえさせるとともに地域間を比較し関連づけて、地域的特色と一般的共通性を明らかにする視点や方法を身につけさせることである。

新学習指導要領において『言語活動の充実』が重視される中で、本単元は地図や人口ピラミッド、グラフなどの**作成・読み取り**を通して、日本の人口の特色と今後の課題を多面的・多角的に考察し、その現状や課題を自分の言葉で**説明（表現）**するのにふさわしい単元であると考えます。

(2) 生徒について

… <個人情報保護のため省略> …

(3) 指導について

これまで、『都道府県を調べよう』の単元では、島根県と東京都の学習において、“過疎”と“過密”の意味とその現状について簡単に触れてきた。また、『世界の国々を調べよう』の単元では、中国を例に世界の主な国々の人口の特徴と人口増加による問題点、また一人っ子政策の意味などについて学習してきた。これまでの人口に関わる学習を基盤として、本単元では人口という視点から、世界の中での日本の特徴と日本国内の人口分布の特徴を、資料からしっかりとらえさせたい。その手段として、生徒の実態を考え、地図や人口ピラミッドなどの資料作成とその読み取りをもとに、わかること・推測されることを自分の言葉で記述・表現する形で学習を組み立てていきたい。その際、人口ピラミッドの作成の技能やその類型（富士山・つりがね・つぼ型）の基礎的知識、また人口密度や人口増加率、過疎・過密などの基礎的事項を確実に押さえておく。

最後に、本単元のまとめとして、主な学習内容を再確認し定着を図る。また、あらためて人口というフィルターからふるさと島根を見つめ直すことで、身に付けた知識技能を積極的に**活用**させたい。具体的には、日本全体、過密地域の代表としての東京都、そして島根県、この3つの人口ピラミッドを比較し、その共通点や相違点を考える。また、あわせて将来（2035年）の人口推移や人口ピラミッドの予測などを通して、私たちが直面する『少子高齢化』という将来的な課題に気づかせたい。また、東京都や島根県とひとまとめに見たときには見えない課題があることにも、いくつかの市町村を例としてとりあげ、考える中でより身近な事柄としてとらえさせたい。

新学習指導要領に基づき改訂された新しい教科書では、中国・四国地方を【人口】という主題でとらえる学習構成がみられる。その中で、島根県の離島や中山間地はやはり「過疎」の代表的地域として学習の対象となる。県面積の85パーセントが過疎地となっている島根県としては、まずは県民自身が過疎地の現状や課題解決への努力の様子をきちんと理解しなければならない。そうした取り組みの中で、島根県が『高齢者の暮らしやすい県 No.1』に認められている事実を通して、ふるさとに誇りを持つとともに、公民的分野の地方自治の学習意欲につなげていきたいと考えている。

4 単元指導計画（4時間扱い）

	学習内容および活動	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料	知識・理解	
1	世界の人口分布と変化 世界の国々の人口分布や人口増加の特徴と課題を考える。	世界の人口分布の特色について、資料を活用し積極的に調べようとする。			世界の人口分布の特色や人口増加の特徴と課題について、資料をもとに理解している。	ワ 発
2	日本の人口の変化と特色 日本の年齢別人口構成や年代別推移からその特徴と課題を考える。		他国の人口ピラミッドとの比較や日本の人口ピラミッドの年代別推移などから、その特徴と課題を見つけ出し、自分の言葉で説明できる。	統計資料をもとに人口ピラミッドやグラフを作成することができる。	人口ピラミッドの種類やその特徴について、正しく理解している。	ワ 発
3	日本の人口分布 日本国内の人口分布の特色をその背景とともに考え、過密・過疎の問題の現状・課題を気づく。		人口増加率を示した地図などから日本の人口分布の特色を読み取るとともに、過密・過疎地域の分布とその課題について自分の言葉で説明できる。		過疎・過密による課題について認識し、どのような取り組みがなされているかを理解している。	ワ 発
4 ま と め	自分たちのふるさとの人口の特徴を捉えよう 島根県や松江市の人口の特徴を知り、その課題について自分なりに考察する。 (本時)	これまでの学習を生かし、島根県や松江市の人口の変化をもとにその特徴や課題について意欲的に追求しようとする。	島根県や松江市の人口ピラミッドの年代別推移や人口増減の様子などから、その特徴や課題を読み取り、自分の言葉で説明できる。		島根県や松江市の人口の変化をもとにその特徴や課題について理解している。	ワ 発 話

話…話し合い 発…発言 ワ…ワークシート

5 研究との関わり

研究主題である『生きる力』を育む湖東中教育の創造～人との関わりを通して、高め合う生徒の育成』に迫るための手段として、小グループを活用した学び合いの学習方法を積極的に取り入れている。特に地理的分野では、作業学習や話し合い学習の際、この学習形態を導入しており、生徒たちもお互いに教え合いながら意欲的に学習にのぞんでいる。本時の学習でも、この学習方法を効果的に活用したい。

6 本時の学習

(1) 目標 既習の知識をもとに、人口というフィルターから島根県の特徴と課題について意欲的に追求しようとする。 (関心・意欲・態度)

人口ピラミッドなどの資料の読み取りなどから、人口というフィルターからみた島根県の特徴と課題を自分なりの言葉で説明できる。

(思考・判断・表現)

(2) 展開

	学習活動	教師の支援	評価
導入 5分	課題 これまでの学習を振り返ろう。 ・世界の人口は？ ・人口の多い国は？日本の人口は何位？ ・人口ピラミッドの見方チェック。 ・人口密度、過疎、過密、高齢化率などの主な用語 チェック。	これまでの学習内容を質問形式で振り返る。	発言 (関・意・態)
展 開	課題 日本・東京都・島根県の現在の人口ピラミッドから、共通点と相違点、および予想される問題点を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">現在→将来(2035年)</div>	◇グループ学習 他と比較した際の島根県の人口の特徴を確認させ、それを自分の言葉で説明する。【作業・言語活動】 →作業する際、苦手な生徒もいるので <u>教え合い</u> ながら協力してワークシートに取り組むこと。また、気づいたことは <u>互いに 伝え合うこと</u> で学習を深められるよう助言する。 ・近い意見でも積極的に発表するよう促す。	作業・記述 (思・判・表) 発言 (思・判・表)
	課題 東京都と島根県の市町村を見て、共通点と相違点、および予想される問題点を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">現在→将来(2035年)</div>		
	課題 島根県の現状を見つめる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">人口減少・高齢化の変化予想地図</div> ワークシートの内容 ・人口ピラミッドから見える共通点と相違点、および ・統計資料から見る島根の姿・島根県の人口、人口密度、出生率、高齢化率、人口増加率など ・人口ピラミッドの特徴の読み取り ・島根県や主な市町村の人口ピラミッドと将来人口推計 など ～気づきを記述していく形式のワークシートを準備～		

40分	<p>発問 気づきを発表しよう！ (10分)</p> <p>気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に少子高齢化が進んでいる。 ・島根県は特に年少人口が少なく、老年人口が多い。 ・松江市は中山間地に比べるとそこまで少子高齢化が進んでいない。 ・海に面した地域に人口が多く、山間部や島しょ部は人口増加率が低い（過疎化が進んでいる）。 ・過疎地が非常に広い。 <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に活気が無くなる ・高齢者を世話する人がいなくなる など <p>発展 島根県が『高齢者の暮らしやすい県No.1に選ばれたことを紹介する。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうい点が暮らしやすいのだろう？福祉体験も終えた今、自分なりに考えてみよう！ 		<p>発言 (関・意・態)</p>
まとめ 5分	<p>感想 今回の学習を通して感想を記入。 (5分)</p>	<p>具体的には、3年次の公民でまた勉強することを告げ興味・関心をつなぐ。</p>	

7 研究の視点

- ・生徒は意欲的に課題に取り組んでいたか。
- ・ふるさと島根を‘人口’という視点から扱った本時の学習の展開は、既習事項を活用するというねらいにせまることができたか。
- ・小グループの学習形態は、学習を進める上で適切であったか。